

平成 21 年度後期シラバス \*授業内容・日程は変更となる場合があります

■エコ・テクノロジー特論 (2 単位) 通常金曜 4 限 (14:50~16:20)

【概要】

サステイナブル・デザインに必要な、省資源、省エネルギー、自然エネルギー、パッシブソーラー、水質浄化などの環境技術およびそれらを活かして持続可能な環境共生型社会を実現するための制度や政策について体系的に学ぶ。

(1) 環境保全に関わる制度・政策：エコテクノロジーを活用して環境保全をはかり、持続可能な環境共生型社会を実現することを目指した各種の制度の事例や、今後とるべき政策について講義を行う。

(2) 省エネルギーと創エネルギー：自動車や家電に代表される省エネルギー技術や、太陽、風力、バイオマスなどの新エネルギー変換技術、燃料電池やリチウムイオン蓄電池など環境調和のための発電や蓄電技術など、これらのエコ技術に関する講義。

(3) 居住設備とパッシブソーラー：住宅における冷暖房や環境に対する負荷の低下を図ることを念頭に置き、パッシブヒーティング、パッシブクーリングなど我が国の気候や地域性を踏まえた様々な環境共生型の居住設備に関する講義。

(4) 地球環境モデル地域創出のための環境技術：居住空間、複合施設、都市空間、農業・産業社会の各環境技術に対する地域の取り組みと地域づくりについて講義。

【授業計画】

10月2日(金) 第1回 イン트로：循環型社会の創造と環境技術 山根・松岡・高田

10月9日(金) 第2回 環境保全に関わる制度・政策：低炭素社会に向けた滋賀県のとりくみ 宮川(滋賀県環境政策課長)・仁連

10月9日(金) 第3回 環境技術の基礎-1：里山・生き物 野間・松岡

10月23日(金) 第4回 環境技術の基礎-2：水と環境：水質浄化技術 南川(工学部機械)・山根

10月30日(金) 第5回 環境技術の基礎-3：電力：発電・蓄電技術 乾(工学部電子)・山根

10月30日(金) 第6回 環境技術の基礎-4：産業・交通・民生部門：省エネと新エネ技術 山根

11月27日(金) 第7回 環境技術の事例・研究-1：建築への応用 太田(デザイン・ヌーブ一級建築士事務所)・松岡

11月27日(金) 第8回 環境技術の事例・研究-2：ガラスの再資源化 加藤(クリスタルクレイ株式会社取締役副会長)・松岡

12月11日(金) 第9回 環境技術の事例・研究-3：廃プラスチックのリサイクル 徳満(工学部材料)・山根

12月18日(金) 第10回 環境技術の事例・研究-4：都市空間 近本(立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授)・松岡

1月8日(金) 第11回 環境技術の事例・研究-5：低炭素社会と地産地消エネルギー 山田(県会議員), 山根

1月8日(金) 第12回 環境技術の事例・研究-6：環境対応型ポーラスコンクリート 畑中(三重大学工学部建築学科教授)・高田

1月8日(金) 第13回 環境技術の事例・研究-7：環境調和型バイオメテック建築 石川(三重大学工学部建築学科教授)・高田

1月29日(金) 第14回 第15回 演習-1,2：山根・松岡・高田

【成績評価】 出席状況およびレポート提出によって評価する。

【テキスト、指定図書、参考書】 講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。

## ■地域再生学特論（2 単位） 通常金曜 5 限（16:30～18:00）

## &lt;授業のねらいと内容&gt;

琵琶湖を中心に形成、継承されてきた滋賀県固有の歴史・文化・自然を基盤とした、生きた地域再生学を学ぶために、「地元学」の観点から、県内の取り組みを教材化し講義する。

「地元学」に共通するテーマは、地域の特色を活かし地域の将来ビジョンにもとづく地域再生の手法の修得及び地域再生に係る事業の企画、調整、実施、改善のプロセスをオーガナイズし、行政、企業、市民、専門家等をコーディネートする総合能力の開発である。

県内各地域で、行政或いは専門家として地域をとりまとめてきたリーダー・コーディネーターによる実践的講義を通して、地域再生の取り組み及び近江環人地域再生学座が育成する「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について学ぶ。

<コアスタッフ>布野修司、黒田末壽、濱崎一志、森川稔

- |        |             |   |
|--------|-------------|---|
| 第 1 回  | 10 / 2 (金)  | イントロダクション：滋賀の地域再生とコミュニティ・アーキテクト<br>布野修司・森川稔 |
| 第 2 回  | 10 / 16 (金) | 高島学 1：関西のふるさとづくり～環の郷再生計画<br>海東英和・黒田末壽       |
| 第 3 回  | 10 / 16 (金) | 高島学 2：農山村再生と森と川と教育の再生<br>中尾友一・黒田末壽          |
| 第 4 回  | 10 / 23 (金) | 彦根学：城下町保存とまちづくり<br>山崎一眞・濱崎一志                |
| 第 5 回  | 11 / 13 (金) | 長浜学：黒壁のまちづくり<br>伊藤光男・森川稔                    |
| 第 6 回  | 11 / 20 (金) | 近江八幡学 1：堀の再生からの活性化<br>川端五兵衛・濱崎一志            |
| 第 7 回  | 11 / 20 (金) | 近江八幡学 2：生き甲斐のまちづくり<br>石井和浩・濱崎一志             |
| 第 8 回  | 12 / 4 (金)  | 東近江学：地域木材循環システムの構築<br>山口美知子・森川稔             |
| 第 9 回  | 12 / 5 (土)  | 近江地域再生フォーラム：地域コミュニティの再生                     |
| 第 10 回 | 12 / 11 (金) | 意見交換 1：地域再生とは何か<br>布野修司・森川稔                 |
| 第 11 回 | 12 / 18 (金) | 湖北学：湖北中山間地域における集落再生の取り組み<br>押谷茂敏・森川稔        |
| 第 12 回 | 1 / 22 (金)  | 大津学 1：新たなコミュニティ創造の取り組み<br>蔭山歩・森川稔           |
| 第 13 回 | 1 / 22 (金)  | 大津学 2：イベントによる地域活性化の取り組み<br>御船泰秀・森川稔         |
| 第 14 回 | 2 / 5 (金)   | 大津学 3：都市プランナーとまちづくり<br>森川稔                  |
| 第 15 回 | 2 / 5 (金)   | 意見交換 2：コミュニティ・アーキテクトとは何か<br>布野修司・森川稔        |

<成績評価> 各回授業内でのミニレポート（第 15 回を除く 14 回×5 点＝70 点満点）と、近江地域再生フォーラムでのパネル提出 10 点、最終レポート（20 点満点）で評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポートを提出すること。なお、この場合、評価点は通常より 1 段階下とする。

<テキスト等> 各週の講義内容に応じて、資料を提示、配布する。

<現地見学> 可能な限り、講義に先立った現地見学をすること。

平成 21 年度後期シラバス \*授業内容・日程は変更となる場合があります

## ■コミュニティ・プロジェクト実習 I (2 単位)

(後期開講：土曜日 3 限～5 限 13:10～18:00 (各ゼミでの調整による))

### <授業のねらいと内容>

この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。地域での実践をとおして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。

具体的には以下のスキル、ノウハウの習得を目指す。

- ・地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断のための調査手法や技術。
- ・デザインシャレットやワークショップといった集団で創造的なアウトプットを得るための手法や技術。
- ・大量の情報や議論をうまく扱い、より広範囲の選択肢を示しながら、容易ではない合意形成へとむすびつける総合的なコーディネート力。
- ・コスト、日程、法規、材料、技術、自然環境といった与条件の中で最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。
- ・現実のプロジェクトで起こりがちな未知のことに遭遇し対処していくことで体得できる、問題解決に対する即応性や柔軟性。

<コアスタッフ>森川稔、鶴飼修

### <授業計画>

前期終了後に受講生対するヒアリングを行い課題プロジェクトを決定する。課題プロジェクトは、受講生が実務で直面している課題をプロジェクトとして位置づけるケースと、教員が実施しているプロジェクトへの参画するケースのいずれかが選択可能である。

授業は、第 1 回目にオリエンテーションを行い、配属ゼミ、指導教員を決定し、目標設定を行う。その後、定期的にゼミを実施し、プロジェクトの企画、進行状況等についてゼミ担当教員から指導を受け、ゼミ生同士の意見交換を行う。また、適宜、指導教員に報告を行い、指導を受ける。12 月中旬に全体での中間報告会を行い、学期末に、成果発表会、講評会を行う。プロジェクト報告書やポートフォリオを作成し成果を公開する。

なお、プロジェクトによっては、地域の事情に応じて実施時期を調整することがある。

### <成績評価>

評価は、発表会、ゼミへの出席状況と、評価シートに基づく自己評価・指導教員の評価により行う。

### <指導体制>

- ・指導教員：受講生が取り組む地域プロジェクトの指導に適した本学内外の教員
- ・ゼミ担当：森川 稔、鶴飼 修

### <平成 20 年度実習事例>

**【上板並における地域資源を活用した集落再生】** フィールド：米原市上板並地区 実施者：Bコース

地域診断で実施した調査内容を踏まえて、地域に入り地域再生活動を実践。地域資源である炭焼きの文化を活用して都市農村交流を実践。

**【大学と地域をつなぐ学生食堂サラダBAR計画】** フィールド：豊郷町 実施者：Aコース

地域の空きビニールハウスと元気な高齢者という地域資源と連携した地域活性化プロジェクト。大学生協と連携し、サラダ用のベビーリーフを生産・納入する事業スキームを作成し実践。

**【近江ワザ回廊WEBの製作】** フィールド：県内各所 実施者：Aコース

県内伝統文化の継承をWEBを利用して支援するプロジェクト。県文化振興財団や民間企業と連携しHPを立ち上げ。

**【地域材によるマンション再生】** フィールド：県内全域 実施者：Bコース

県内の森林とマンションを同時に再生させる切り口で、需要調査を実施し、マンション再生の事業スキームを提案。

**【信楽人物マッププロジェクト】** フィールド：信楽地域 実施者：Aコース

信楽地域の活性化策として地域資源である人財に着目。「陶器産地に生きる顔」をテーマにカード形式の人物マップを製作し、ネットワーク構築を支援。